

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名: 齋藤 理一郎

所属: 群馬県立太田フレックス高等学校

記録日: 2022年2月24日

キーワード: コミュニケーションの広がり 定着した学力の自己表現への応用(英語)

【対象児の情報】

・学年

高校2年生相当(17歳2ヵ月) 男子

・障害名

知的障がいを伴う自閉症(広汎性発達障がい)

・障害と困難の内容

コミュニケーション(やり取り)が難しい。

予定が分からなくて困ると、戸惑う。固まってしまう。

自分が困っていることについて、周囲に伝えられない。

中学校では特別支援学級に在籍していて、教科学習(特に英語)の経験が不足していることに不安がある。

・使用した機器に

iPad iPhone watch Chromebook(学校貸与の一人一台端末) AIスピーカー Pepper

【活動目的】

・当初のねらい

(1) 表現力における目標: 困っていることなど必要なことを周囲に分かってもらえるように伝えられる。

(2) 対人関係における目標: 周囲の教員や生徒に関心を持ち、円滑な関係が築けるようになる。

(3) 自立生活に向けての目標: 生活管理する習慣を作り、予定の変化に対応して行動できるようになる。

(4) 英語学習の目標: 定着した知識を活用して、英作文や発表などの表現活動に取り組めるようになる。

・実施期間

週1回 60分程度の別室での支援タイム(2021年5月10日~2022年2月21日の計27回)

週1回 30分程度のzoomミーティング(2021年8月8日~2022年2月20日の計23回)

・実施者

齋藤 理一郎

・実施者と対象児の関係

講座担当(コミュニケーション英語Ⅱ基礎クラス: 週2回・1コマ90分)

個別支援タイム担当(対面で週1回各60分程度。夏休みからオンラインで週1回各30分を追加)

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況(◎=できていること/▲=学校生活上の課題)

◎欠席もなく落ち着いて過ごしている。

◎片道1時間弱(乗り換えあり)の電車通学にも慣れた。

◎各教科への取り組みについて、「授業態度は問題ない」と、各講座担当から報告されている。

◎1年目は必修科目 24 単位をすべて修得できた。

▲コミュニケーション(相互のやり取り)が難しい。

▲周囲と関係を持ちたい意欲はあるが、交友関係の築き方が分からない。

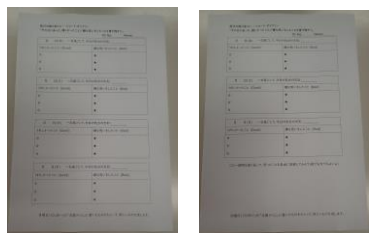
▲予定に変更があると戸惑ってしまう。固まってしまう。

▲授業では、表現活動などへの取り組みを避けている。

・活動の具体的内容

(1) 表現力における目標:困っていることなど必要なことを周囲に分かってもらえるように伝えられる。

手立て①「ショートダイアリー」…オリジナルのフォーマットの手書きのワークシート



- ・ 毎日の出来事を短文で記述し、その出来事をどう感じたかを Good/Bad に振り分ける。
- ・ 1週間単位のワークシートで、毎日のふり返しと同時に、翌週の予定も確認する。
- ・ 記述したものについて、支援者とやり取りしながら「困ったときの対処法」を一緒に考える。

(2) 対人関係における目標:周囲の教員や生徒に関心を持ち、円滑な関係が築けるようになる。

手立て②「えにつき」



- ・ 夏休みで、対面での個別支援タイムが取れない間のショートダイアリーの代わりとして取り組む。
- ・ 自分の趣味や興味のあるものについて写真と文章で伝える。
- ・ 出かけた先で撮った写真を添えて、「いつ」「どこで」「何をしたか」を文章で伝える。

手立て③「zoom」



- ・ 夏休みで、対面での個別支援タイムが取れない間につながる手段として使う。
- ・ 自分で日と時間を決めて(予定を立てて)、支援者と定期的にミーティングを行う。
- ・ 画像を画面共有したりして、「いつ」「どこで」「何をしたか」を口頭で伝える。

(3) 自立生活に向けての目標:生活管理する習慣を作り、予定の変化に対応して行動できるようになる。

(いくつかのスケジュール管理方法やアプリケーションの活用を紹介し、実際に使ったが、関心を持たず、活用は定着しなかった。口頭での指示を十分に理解して行動している。)

(4) 英語学習の目標:定着した知識を活用して、英作文や発表などの表現活動に取り組めるようになる。

手立て④「Quizlet」



- ・ コミュニケーション英語Ⅱの新出単語や、本文のショートチャンクの繰り返し学習に取り組んだ。
- ・ テストの項目では、自分でオプションを操作して、難易度を調整できる。
- ・ 授業時間や個別支援タイムの他に、家庭学習でも取り組んで、定着をはかる。

手立て⑤「Google Classroom」



- ・ 毎回の授業で配布したプリントの PDF や板書画像を添付したふり返し配信を、復習や次回の準備に役立てる。
- ・ 「テスト」や「資料」を使って、単元のまとめや定期テスト対策にも取り組む。

手立て⑥「Jamboard」



- ・ ファイルを他の受講生と共有して、付せて自分の意見を貼り付けて協同学習的に使う。
- ・ 自分で意見が出せなかったところは、他の生徒の意見を参考に内容の理解を深める。
- ・ コピーとして配布されたファイルを活用して、個別に日本語を参考にした並べ替え英作文に取り組む。

手立て⑦「Google スライド」



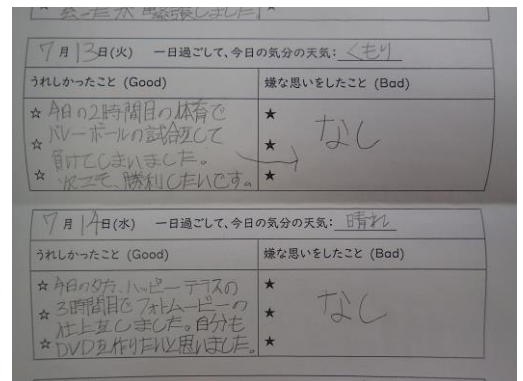
- ・ コミュニケーション英語Ⅱの講座で、「人に読んでもらえる英作文」のスライド作りに取り組んだ。
- ・ 好きなものの写真をスライドに貼り付けて、それを説明する英文を打って、スライドを作る。
- ・ 校内学習発表会の授業企画として、他の生徒や教員に見られる(読める)ように展示した。

・対象児の事後の変化

①の取り組みを通して:

- ・ 最初は事実の短い記述だったものが、だんだん長く具体的な記述ができるようになった。
- ・ 「難しかった」「分からなかった」などの感想や、「～したい」の願望が出てくるようになった。
- ・ 余白に「次の週の予定」を書き込むなど、自分なりの工夫をして利用するようになった。
- ・ 「うれしかったこと/嫌な思いをしたこと」の振り分けが分かりやすかったようで、年度末まで書き続けた。

<ショートダイアリーの記述(夏休み前)>



<えにつきで、好きなものを伝える>



②の取り組みを通して:

- ・ 「ショートダイアリー」に比べると長くて具体的な記述が多かった。
- ・ 好きなものについて説明的な記述が多く、「伝えたい」という姿勢が見られた。
- ・ 支援者との交換日記形式にしたところ、送る頻度が週1回だったものが週2~3回に上がった。
- ・ 写真と文章で完成する「えにつき」の形式が気に入ったようで、年度末まで取り組み続けた。

③の取り組みを通して:

- ・ 決まった時間になると、約束どおりにログインして待つようになった。
- ・ zoom で写真を画面共有する操作をして、説明ができた。



- ・ ミーティング ID やパスコードを忘れると、メールで「教えてください」と頼むようになった。
- ・ zoom に入ると、最初の「こんにちは」と、最後の「さようなら」のあいさつを言うようになった。

<zoom の前に、メールでやり取りして確認>



- ・週に1回の zoom ミーティングが習慣化して、年度末まで取り組んだ。

④の取り組みを通して:

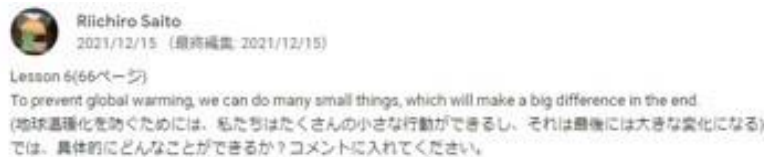
- ・授業時間や支援タイムに加えて家庭学習でも繰り返し取り組み、知識の定着が見られた。
- ・オプションで難易度を自分向けに合わせて「クイズ」を繰り返し、正答率が向上した(35%→50%→80%)。
- ・Quizlet での学習の成果として、前期期末テストはコミュニケーション英語Ⅱクラスの最高得点(85 点)を取った。

⑤の取り組みを通して:

- ・ふり返りの配信に対して、いつもクラス一番乗りで「確認しました」のコメントを残した。



- ・授業中に考えたことなど自分の意見をオンラインで求めると、教室での口頭のやり取りより積極的に答えた。



⑥の取り組みを通して:

- ・教室での口頭でのやり取りでは少なかった「自分の意見」を付せんを使って書き込んだ。
- ・自分で思いつかないところは、他の生徒が貼った付せんを参考に、ノートにまとめていた。
- ・液晶パネルを操作しての単語の並べ替えは取り組みやすいようで、各レッスンの課題をきちんと提出した。
- ・配布する課題にも積極的に取り組み、添削して返却すると、再提出する意欲を見せた。

<Jamboard 課題のやり取り>



⑦の取り組みを通して:

- ・「えにつき」の活動で、写真のコピー&ペーストには慣れてきて、すぐに自分の題材(特急列車の車輛)を決められた。
- ・「ショートダイアリー」や「えにつき」の取り組みを続けてきた成果で、説明的な文章構成ができた。
- ・展示発表するという、伝えたい相手を意識した活動に対応して、英文を書けた。
- ・Quizlet や Jamboard の並べ替えて定着した表現を英作文に応用できた。

【報告者の気づきとエビデンス】

(1) 表現力について:

- ・ ショートダイアリーは、最初は短く事実のみの記述だったが、「詳しく教えて」「感想も書こう」などと促すと、それに応じて、長く具体的な記述をするようになった。
- ・ 「感想(感情)について、どうしてそう思ったか、理由を書こう」と促すが、表現するのが難しい様子だった。
- ・ 毎日のショートダイアリー記述の習慣が定着した後で、デジタルの「えにっき」にもスムーズに取り組めた。
- ・ 手書きのショートダイアリーからタイピングの「えにっき」になり、長く説明的な表現もするようになった。

(2) 対人関係について:

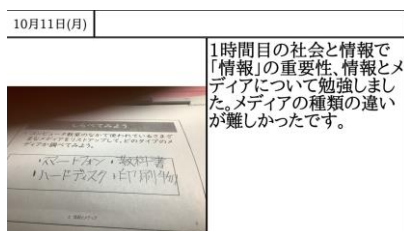
- ・ 出かけた先で見てきたものや、そのときに興味があるものについて、「えにっき」を使って人に伝える姿勢を見せた。
- ・ 後期の授業が始まると、授業で学んだことをまとめるのに「えにっき」を活用するようになった。
- ・ 2021年10月頃から、完成した「えにっき」をメールに添付して送って伝えるようになり、書く頻度も上がった。

<月ごとの「えにっき」の作成枚数>

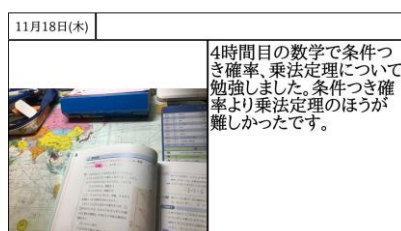
2021年10月	2021年11月	2021年12月	2022年1月	2022年2月
10枚	10枚	13枚	16枚	16枚(~2/24)

- ・ 「えにっき」の作成を続ける中で、「何について」「どう感じたか/思ったか」の表現力が向上した。

<10月の「えにっき」の例>



<11月の「えにっき」の例>



<2月の「えにっき」の例>



- ・ 書いて伝えるコミュニケーションとしての「えにっき」の他に、話すコミュニケーション手段としての「zoom」も、毎週のミーティングを楽しみにしていた(ワクチン接種の副反応でキャンセルしたときは、メールで「残念です」と伝えた)。

(3) 自立生活について:

- ・ 個別支援タイムの活動のルーティン化に、安心して新しいことにチャレンジする姿勢を見せた。
- ・ アプリなど、いったん取り組んでみた時点で気に入らなかったもの(うまく動かせないもの)は、定着しなかった。
- ・ スケジュール管理などはデジタルツールよりも手書きの記録を好んだ(その分、人の話を注意して聞くようになった)。

(4) 英語学習について:

- ・ Quizlet や Jambaord のような学習アプリには興味を持って取り組んだ。
- ・ 学習アプリに集中して繰り返し取り組み、知識の定着をはかった。
- ・ 前期中間テスト以降、期末テストに向けて点数の目標(90点取りたい)を設定し、取り組んだ。

<コミュニケーション英語Ⅱの定期テストの点数の推移>

	前期中間テスト (2021年6月)	前期期末テスト (2021年9月)	後期中間テスト (2021年12月)	後期期末テスト (2022年2月)
対象生徒の得点	57	85(クラス1位)	54	73(クラス2位)
受験者数	16	14	14	8(在校生のみ)
クラス平均点	54.9	51.3	62.3	59.0
クラス最高点	83	85	94	85

- ・ 前期期末テスト後は、「このくらいいいや」という甘い考えが生じて、Quizlet に取り組む時間と回数が減った。
- ・ 後期中間テストでは平均点以下に下がってしまい、悔しがっている様子を見せた。
- ・ 「しっかり取り組みれば高得点が取れること」「手を抜けば点数が下がること」の両方を経験して、後期期末テストに向けては目標を「90点」に設定し、Google Classroom で提示した課題に取り組んだ。
- ・ 感染拡大防止のための休校期間中(2022年1月26日～31日)もリモート授業で課題に取り組み、後期期末テストは目標点には達しなかったが、クラス2位の点数を取ることができた。
- ・ 点数以外では、前期期末テストで英語学習への手応えを感じて、その後の英語の授業への参加の姿勢が高まった。
- ・ 12月の学習発表会では、他の受講生と一緒に Google スライドで英作文の展示を行った。

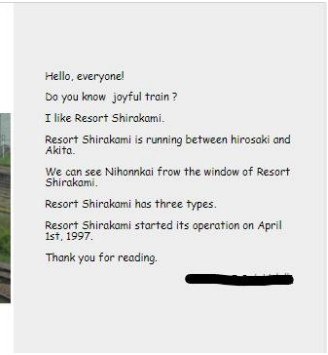
<授業企画「太フレ生の英語力 2021」初稿>

<授業企画「太フレ生の英語力 2021」最終稿>

太フレ生の英語力 2021



太フレ生の英語力 2021



- ・ Quizlet や Jamboard を使った英語学習の効果の他、「ショートダイアリー」や「えにつき」の取り組みを継続したことにより、「誰に対して」「何を」「どのように」表現するかの工夫が英作文においても見られるようになった。

(5) その他、観察された行動(◎)と今後の課題(▲):

- ◎ ルーティンが入ると、その活動に継続して取り組みたがる(例:ショートダイアリー、えにつき、zoom)様子を見せた。
- ◎ ルーティンが定着して安心感を得たのちに、新しいことにチャレンジする傾向を見せた。
- ◎ プロジェクトへの取り組みを通して、取り組み以前に比べて「周囲の存在への意識」を向けるようになった。
- ◎ 周囲の大人(教員)に対しては、困っていることを伝えたり、頼みごとをしたりできるようになった。
- ◎ 家と学校の往復だけでなく、行動範囲が広がった(例:お昼を買いに、近所のスーパーに行く)。
- ▲ 活動に慣れてくると、手を抜いたり楽をしたがる(例:英語学習アプリへの取り組みの頻度の低下)ところがある。
- ▲ 生徒同士の関係作りでは「嫌だという思いをうまく表現できない」「相手に伝わるように頼めない」トラブルがある。
- ▲ トラブルへの対処として、「自分と考え方や感じ方が違う他者」を受け入れる練習に取り組んでいる。